第 12 期　松戸市緑推進委員会

第２回　委員会

１．日時　　令和 4 年 12 月 23 日（金）14：00～16：00
２．場所　　松戸市役所　市民サロン　（新館 5 階）
３．出席者
　〇緑推進委員
　　柳井重人・小谷幸司・高橋盛男・河合直志・石川靜枝（オンライン）・藤田博美・藤田　隆・上野義介（オンライン）・桝谷有三

　〇松戸市
　　齋藤博紀　　（街づくり部審議監）
　　布施　優　　（公園緑地課課長）

　〇兼事務局（みどりと花の課）
　　三末容央（課長）・木村高徳（補佐）・木原　茂（補佐）・岩田　昇（主査）

　〇松戸みどりと花の基金
　　田辺久人　事務局長

　〇傍聴　2 名

　事務局より本委員会の成立について、委員13人中9名の出席により成立している旨報告あり。

４．議事次第
　1 開会
　2 議事
　　1）議事要録の確認
　　2）第 12 期緑推進委員会テーマについて
　　3）みどりのサロン部会からの報告
　　4）その他
　4連絡事項
　5閉会

事務局
第 2 回松戸市緑推進委員会の開催の前に事務局として皆様にお知らせがございます。
鎌田委員から事情により緑推進委員会を辞退したいとの申し出がございました。
事務局として問題を解決し、何とか慰留しようとしましたが本人の意思が固く、これを受理することといたしました。
委員の辞任につきましては、松戸市緑推進委員会の組織および運営に関する規則第 9 条により、委員会の運営に関する必要な事項は会長が定めることとなっておりますので、辞任を受理し第 12 期緑推進委員会委員定数を 14 名から 13 名にしてよろしいか、伺いたいと思います。
柳井会長いかがでしょうか。
会長
辞めたいということですので、引き止めても引き止まらなかったということですから、一旦 13 名

ということにさせていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

―――異議なし―――

会長
12 期の緑推進委員会の定数は 13 名ということにさせていただきます。
事務局
それでは、第2回緑推進委員会の開催をお願いいたします。
今回の委員会も新型コロナウイルス感染症対策として、当面は対面開催とオンラインでの参加により委員会を開催することとしております。
本日の委員会は、平岡委員、木下委員、脇阪委員、小嶋委員が所用のため欠席でございます。
石川委員、上野委員についてはオンラインで出席しております。
現在、委員13名中9名が出席しておりますので、松戸市緑推進委員会の組織及び運営に関する規則により、会議は成立している事をご報告いたします。
また、委員会の議事概要および出席者を記した議事要録につきましては、事務局で取りまとめ後日、委員会の皆様にご確認いただきますのでよろしくお願いいたします。
議事録の公開は、情報公開担当室を通じて公開するとともに、松戸市のホームページにおいても公開させていただいております。
それでは議事に入っていただきたいと思います。
よろしくお願いいたします。

会長
第2回緑推進委員会開催します。
傍聴について、事務局の報告お願いします。

事務局
本日2名より傍聴の申し出がありましたので、松戸市緑推進委員会の組織及び運営に関する規則の規定により許可したいと思いますが、いかがでしょうか。
会長
よろしいでしょうか。

―――賛同―――
会長
傍聴を許可します。よろしくお願いします。

議事 1）議事要録の確認について

事前に送付した議事要録について異議はあるか。
無ければこれを以て議事要録とする。

２）第12期緑推進委員会テーマについて

事務局

まずは、お手元の資料を確認させていただきます。
資料1として、第１回推進委員会委員会テーマについての振返り
資料2として、子ども政策課作成の冊子「こどものいる暮らし」
資料3として、本日急遽お配りしました、第12期委員会へ引継ぐ課題
以上が本日の配布資料です。過不足がございましたらおっしゃってください。

それでは、議事2）についてご説明いたします。
資料１をご覧ください。前回の委員会では事務局より提案させて頂きましたテーマを基に議論していただきました。その内容について、要点をまとめた資料でございます。
今期のテーマとして、みどりの基本計画の理解促進が大切であるという話がございまして、その中から3つの課題について、ここにいる全員で、まずはイメージを共有することが必要であるとのお話がございました。その3つの課題とは、後からお配りした「第12期委員会へ引継ぐ課題」こちらの３つのことになります。
会長
こちらの資料についてオンラインの委員さんは、前回の委員会の活動報告書の28ページに第12期委員会に引き継ぐ課題ということで3つの課題があります。それを確認していただければと思います。
事務局
では、3つの課題からお話します。
1つ目がみどりの基本計画理解促進について、2つ目がみどりのシティプロモーションについて、3つ目がプラットフォームの実現に向けた取り組みでございます。
本日は、この3つの課題について、今後の緑推進委員会やみどりのサロン部会が、どのように関わるかなど、役割の範囲や取組の進め方などについて、共通認識を図りたいと考えています。また、前回を振り返りますと、基本計画の推進についてはシティプロモーションやSDGｓに絡める、催し物などを通じて自然体で普及したい、展開には戦略が必要であるなどの議論がございました。また、みどりの基本計画の理解促進に子ども政策課の作成した冊子、今日お配りしている「こどものいる暮らし」が参考になるとのいうご意見を頂きましたので、皆様にお配りしております。
その他には、地域と人との関わり方が、以前と変化しているということかから、地域とのライトな関わり方や地域のファンとしての関り方、断片的、断続的なかかわり方として、関係人口やこれからの担い手というキーワードが提示されております。
その他には、これからの価値観を作る世代はＺ世代となるので、Ｚ世代を対象としたプロモーションの必要性や、みどりは世代をつなぐキッカケとなるということから、「Ｚ世代」や「世代」といったキーワードが出ております。
また、みどりの活動があまり市民に知られていないというところから、「活動のアウトプット」といったキーワードも出ています。
以上、簡単ではございますが、前回の振返りでございます。
本日は、
3つの課題についてイメージの再確認と、それに係る議論を賜りたいと思います。
会長
ちょっとおさらいします。まず、第11期の委員会で20年ぶりに緑の基本計画を改定したものが、

前期までの成果となります。それをどう展開していくかというのが、今期の活動の中心になるということです。
みどりの基本計画の策定に関わった第11期の委員会が、12期の方に引き継いでいきたい課題を整理したものが、お手元に配られた3つの課題となります。
1つは松戸市みどりの基本計画の理解促進となります。
4年もかけて作った150ページぐらいに及ぶしっかりした計画ですが、これが市民の生活の中におりてきたときに、どのくらい理解してもらえるか、この趣旨とか考え方を理解してもらう必要があります。
2点目がシティプロモーションに関連してオリジナルプログラムの提案となります。
みどりと暮らし、その豊かさを大切にすることをみどりの基本計画の基本理念として定めております。「みどりが暮らしに対してどんな豊かさをもたらしているのか」とかを、プロモーションしていきたい。
3点目がプラットフォームとなります。
今まで色々なみどりの活動や議論の場はたくさんありましたが、その基盤となるようなもの（プラットフォーム）を強化していってはどうか。
これらが引き継ぐべき課題となっています。
それに対して、前回ご意見をいただいたものがこの振り返りという資料1となりますが、今日は何かを決めるわけではなく引き続きご意見をいただきたいということが委員会の趣旨です。具体的にすることを決めるわけではなく、みどりの基本計画を理解してもらうにはどうしたらいいか、そこからこの3つの課題のイメージを共有していこうと考えています。
それから、特にプロモーションの観点では資料2の「子供のいる暮らし」という子ども政策課さんが作った冊子です。これがプロモーション参考になるかまだ分かりませんが、どんな伝え方があるかを議論していきたいと思います。
前回の振り返りでもいいですので、少しご意見いただければと思います。

委員

「Z世代」というと14歳～27歳くらいだと思うが、みどりの基本計画や他の計画を小学校や中学校など、子供達の目につく場所に置いている事例はありますか。

事務局

学校に直接こういったものを置いているということは聞いたことはないですけど、ワークショップとかをやるときには、学校の方にワークショップの案内や資料をお配りして、それを対象の学年の方に持って帰ってもらうとか、そういうことはしています。例えば、資料2の「こどものいる暮らし」はデザインが良く綺麗なので、1万部ぐらい作ったものがほぼ売り切れ状態だということを聞いてます。学校の方も、この様な冊子であれば先生が非常に関心を持っていただけるし、すごく喜んでくれると思います。ただ事例はあまり聞かないです。

委員

あの厚い計画書を子供たちが見るかというところはありますが「触れるきっかけを作る」みたいなことがあってもいいと思います。
以前、「計画書の概要版を」との提案が出ていたと思いますが、とても表紙のイラストがかわいらしくて子供ウケしそうだと思いました。

会長

まず子供たちに見てもらうという話は、みどりの基本計画を検討しているときから出ていて、分厚い冊子を作っても市民の誰が読むのかと、そう言った時にわかりやすく伝える必要があるということと、子供たちに見てもらえないかということから、子供版みどりの基本計画を作ってはどうかという話は出ていました。それから、概要版に関しては、ただの概要版では面白くないのではないかということです。施策の一覧を抜き出してパンフレットを作っても、それでは本当に伝わらないのではないかということです。具体的なプロモーションをしていくことになると、1つのイメージとして、「こどものいる暮らし」の冊子みたいなものがヒントになるのではないかということです。

「Ｚ世代」については前回、お話が出たと思いますが、何か補足ありますか。

委員

「Ｚ世代」に関しては、一番見えないマーケットと言われているところで、「Ｚ世代」もいずれ「Ｚ世代」じゃなくなりますけれど、そのまま大人になっていくわけです。そこにいかに刺さるように、がマーケティングだと思います。10年ぐらい前からマーケティングのゴールは売り上げではなくて共感となっている。

いかに共感されるサービスが商品で、人々の共感が生まれるかが大切。ですからその世代の子たちにどうやって「みどりのあるライフスタイル」について共感を得ていくということがとても大事かなと思っています。

ちょっと話しがずれてしまうかもしれませんが、私のキャンパスがある藤沢市では、シティープロモーションとして観光・スポーツ・子育てなど、各大学にテーマを設定して、このテーマに即したプロモーション動画をつくっています。うちのゼミの子たちは「子育て」をテーマにほんと1分ぐらいの動画を作っていて、僕らが見ても理解できないこともあるんですが、多分「Ｚ世代」では理解できるものだと思うんです。それをYouTubeだとかデジタルサイネージで、定期的に配信するとともに、うちの子たちもラジオに出演して、ＦＭラジオでプロモーションを行っています。こういったものを作っています、と宣伝しています。そうやって「Ｚ世代」より上の世代の人たちにも報告しています。

Ｚ世代へのやり方としては僕らがやろうとしても、難しいところがあるので、Ｚ世代はＺ世代にやらせる。千葉大学の園芸学部の学生さんは、みどりに関心のある学生さんたちが多いので、そういった子たちに日常生活の中での「私のみどりの関わり」みたいなものを１分とか、それぐらいの動画にしてもらって、それを松戸市の中でうまく使っていく。それによって共感をさせていくっていう戦略構想を持つこと。それはＺ世代だけではなくて、例えば高齢者にモデルになっていただいてやっていけば、少しずつイメージが湧くのではないかと思います。

太い150ページの中の10項目とかでいい、それが突破口になると思います。動画もいいですし、ちょっと上の世代の方には紙媒体の方がいいかもしれない。紙媒体と動画とかのＳＮＳも使えるような形の両方使うコンテンツっていうのを考えていく。

高齢者の方に自分の動画を撮ってと言っても難しいと思うので、それもＺ世代やってもらえばいいと思う。彼らは、その瞬間にやってしまいますから、うまく使ったらいいのかなと思います。

もっと下の世代とかは、大学もこれから探究の時間というカリキュラムを色々考えて対応していかなければならないし、高校はそういう子たちを受け入れなければいけない。地域の課題解決み

たいなところを学んでくることが高校の授業中に入ってきて、そういった方向の科目の探究の時間に、みどりの基本計画で提案しているような中身を課題として入れていくようなやり方も、教育機関との連携として1つあるのではないかと思っています。

会長

共感のマーケティングって若い子たちだけじゃなくて、我々もそうですよね。何かを買うときも、その裏にある「この人が頑張って作った」「この人が困ってる中で一生懸命売ろうとしてる」といったストーリーに価値を感じて、ちょっと高くても買うわけですですから、これは僕らの世代もあるのかなという気がします。

委員

フードロス等はまさにそういう消費購買行動となっている。

会長

それから我々だとグーグル検索とかヤフーなんですけど、Ｚ世代はもう3番目か4番目に、ティックトックの検索がくるぐらいの状況になってますし、確かに我々ではついていけないところがあるので、どうやって仲間に入ってもらうのかなっていうのは、確かに重要なことですね。

委員

何か聞きながら「そうだよね」と思っていました。松戸市ってボランティアに参加する機会は結構あるので、世代ごとの関わりの形でいけるといいなと思いました。

委員

この間遊びの森という囲い山のイベントに来場してくださった方に言われたのが、松戸に活動があるのも、こういう森があるのも知っていたけれど、参加の関する情報がないとの話しだった。イベント告知はしているが、それがネット検索しても見えてこないので工夫が必要だと感じた。「こどものいる暮らし」は動画も連動しているようだ。

委員

色々なバージョンの動画がYouTubeであるので、ぜひ見てください。

会長

このＱＲコードからいけるようだ。

委員

何種類か撮っていて市民の方がモデルのものもあります。元々住んでいる人が親になって、、、というようにストーリーがある感じに作っています。

委員

学生たちに森へ行って取材してもらって、本当に1分くらいの動画作るコンペをしたい。
実は千葉大学の学生さんにやってもらったことある。それは僕らじゃ全然できないようなカットの使い方をして、すごく素敵でした。それは実験的にやってみたものですけれども、1分ぐらいの短い動画に何かロゴマークとかのクレジットをつける。それを全部一緒にしていけば、誰が作っても同じシリーズの動画となる。このような形態とするかどうかは別として、基本計画をどう伝えるかのコンセプトとして、このような紙媒体のものを作りながら考えて「基本計画で表現されているこの部分はこのことです。」というものを作っていくと具体的に伝えられるのではないか。
探求の時間についてですが、テーマ・プログラムを作るのに苦労している。雛形みたいなものはあるが、それだけやっても上手くはいかないので、そういうところにアバウトなプログラムを作

って、実験的営業に行ってもいいのではないか。「場所もありますよ。人もいますよ。プログラムもこんなのありますよ。よかったら使ってみませんか。」と出来るといい。

会長

探究の時間は具体的に、どんな感じなんでしょう。何年生とか決まっているのでしょうか。

委員

昔の総合的学習が探求に切り替わっていく形が一般的です。

今まで総合的な学習の時間が英語の時間なってしまっていたのを探求の時間とすることになったので、小学校から高校まで全部入ります。高校は必修となります。

委員

小学校では近所のスーパーに行ったりしている。

委員

中学や高校では、グローバルにやっているところと、地域的にやっているところと別れてしまっている。地域的にやっているのは石川委員が言ったように「地域課題を自分たちで見つけてきてそれを解決する。」ようなことをやっている。

委員

国公立とかより私立の話しですが、ＡＯ入試のような選抜型入試の枠がどんどん増えていく傾向があったので、その絡みで探求を考えている部分もあると思います。上手くそこにみどりを加えるのは可能性としてあると思う。学校からの需要はかなりあると思います。

委員

今、私立だと卒業論文を書かせる学校があると聞いている。中学校3年生が中間の報告書みたいなものを書いていた。そこに地域のみどりはいいテーマだと思う。

委員

みどりの基本計画にはヒントがいっぱい詰まってるので、切り出して使えばものすごくいいテーマになると思う。

会長

今の話しのようなことを、常盤平ではＳＤＧｓの関係でやっています。常盤平団地がＳＤＧｓのモデル事業に採択されたので、市内4大学の学生さんに参加してもらっています。千葉大の工学部の中にミライノラボというまちづくりとか地域課題解決をする会社がありますが、そこが色々なワークショップをやったりしています。みどりは直接のテーマじゃないけど、園芸学部の学生もいます。

委員

松戸市には色々なキャラクターがあると思います。そういったものをフリー素材として提供して、作られた動画でコンペをするのも面白いと思う。小学生、中学生、高校生、今タブレットを使っている子供なんかは本当に一瞬で動画を作ってしまう。

会長

今キャラクターどんなキャラがいるんでしょう。私がよく見るのは顔に松戸って書いてある松戸さんと農政課のみのりちゃんぐらいだと思います。

委員

まつドリもいます。

事務局
沢山キャラクターはありますが、あまり認識はされてない。
会長
千葉市は、ちはなちゃんがいるんですよ。千葉市はオオガハスが出てきたのでそれを中心に花づくりをしてきた経緯があって、そのキャラクター作ったのですが、実際もう定着しているしピンバッチとか色々なものを売っています。多分、著作権を結構緩くして、いろんな業者さんがどんどん作れるようにしたのだと思います。
委員
キャラクターみたいな松戸市のプロモーション関係してるんですか。
事務局
松戸さんをお願いする時は広報広聴課にお願いするのですが、後は各課で管理されてると思います。
委員
シティプロモーションの部署ってどんなことをしていますか。
委員
シティプロモーションの委員に聞いたところによると、同じような冊子を作成したりとか松戸市のホームページの中にあるページを市民ライターさんが松戸市の魅力を記事にしてアップしている。全体で動いてるのか分からないが、シティプロモーションは街の魅力を発信していて子ども政策課の方では冊子なんかを作っている。
事務局
シティプロモーションは、市のプロモーションを課としてやっていると思いますが、その他のキャラクターは各課で管理していると思いますので足並みが揃っていないかもしれません。
会長
子ども政策課とか、シティプロモーションにみどりが相乗りしたりとか、そこにみどりを合わせていったりとか、そういうアクションは今までされていますか。これらは広告代理店にすごいお金かけて作られたと思いますが、みどりだけで単独でやると大変なわけですよね。
事務局
今現在も、例えばここ会場に来るときの地下エレベーターホールにあるモニターで里やま活動の動画を流しております。そういったことで、少しずつ市の全体の枠の中でみどりが出てくる場面はありますが、これを増やしていきたいと思っている。
委員
役所の中にどんなリソースがあるかを確認していかないといけない。
会長
相乗りしてやれる部分もないと、全部が全部ここだけでやるというわけにいかないと思います。
21世紀の森と広場
子ども政策課から子育て情報サイトの方で21世紀の森と広場の情報提供をしましょうということで、何かイベントとかがあると子育て世代の方に情報発信しています。
会長
みどり好きな人はみどりが好きだから知っている。だけど、その周辺の「ちょっと興味のある人」

をどうやってファンにしようかという話はずっとありました。それをするためには、みどり好きの人とこっち側だけでやっていても足りなくて、例えば子育ての分野であったり、戸定邸があるから、歴史文化みたいなところでアピールしていったりとかの必要がある。前回の小谷委員が関係人口と言っていましたが、関わる人を増やしていくためには枠から出ていく必要があるとの議論は以前からある。この「こどものいる暮らし」の中でも、パート1は21世紀の森と広場ですし、その次が江戸川の河川敷となっていて、その後に幼稚園、保育園の充実となっている。やっぱりこういうところに出ていくのが大事なことなのかなと思う。

委員

この絵ですが、21世紀の森と広場と江戸川がありまして、これが前回の調査ランキングで、1番目21世紀の森と広場、2番目桜通りとなっていましたが、その中で中央公園が一番最後になっていたのが気になった。私の感覚からすると、日頃、何気なく接することできる公園というのが、街中にあれば非常にいいなと思う。それが相模台にある中央公園なんですが、非常にアクセスが悪い。一昨年に新拠点整備計画というのが作られたようですが、これを改めて見るとみどりについて色々書かれていて、松戸にみどりがたくさんあるのに、あまり宣伝していないため市民にとって身近になっていないという指摘がある。

それは私も日頃生活の中で感じていて、松戸駅をどちらに降りるかによるかと思いますが、旧伊勢丹の方向に降りると結局公園との接触がない。相模台公園があるにもかかわらずアクセスが悪い。これは地形的な問題もあると思うんですが、そういう面で言うと、身近に市民が接することができる中央公園あたりを充実、アクセスしやすくすれば市民のみどりに対する関心も高まってくるのかなというのが、1市民として感じるところであります。

公園緑地課で中央公園とかのアンケート調査をされていると思いますが、そういったものがこの委員会に反映されるのでしょうか。

公園緑地課

今お話しのありました松戸駅前の公園については、市内の15ヶ所の公園を対象とした再整備事業を平成25年から実施していまして、その中の1つの公園として松戸中央公園、1つの公園として相模台公園の再整備事業に着手しています。

松戸駅前の再整備をして活性化を図るという事業を松戸市として行っていますが、公園としても、再整備というテーマで市民アンケートを行ったりしています。また、相模台小学校の6年生全員の約120人にワークショップに参加していただいて、一緒に自分たちの住んでる地元の公園についての議論や話し合いをしてもらいました。そのような形で松戸市内の地域公園再整備事業の一環として現在着手しております。

会長

今ご指摘いただいたことは考えなければならないと思います。おそらく松戸を代表する公園として21世紀の森と広場と戸定邸だけは割とプロモーションしている状況だと思います。個人的には結構個性的な公園があると感じていて、戸定が丘歴史公園は目鼻立ちのはっきりしている公園ですし、ゆいの花公園もはっきりしている、松戸中央公園も色のある公園と考えると、21世紀の森と広場だけじゃないよっていうところが大事だと思う。

それから、今出た地域の核となるような15公園を再整備してることが次の段階で、みどりの基本計画のアンケートで分かったのは身近な公園がもうちょっと使われて欲しいなということ、専門

的に言うと街区公園であるが、そこをもうちょっと魅力的にして使ってもらいたいというところを議論していきたい。だからまずは松戸を代表するような公園をどうやって、市民に知っていただくかっていうことなんだと思います。
若い人たちにとって戸定邸とかどうなんですかね。
委員
若くても歴史が好きな人は行くと思います。花の時期は特にいいです。
委員
私の学校は関西で同窓会の時に聞いたものですけど、大河ドラマで戸定邸の公園が出たという話しを聞いた。世代が違えば魅力的に感じることも違うと思うので、それぞれの世代に向けた発信が必要だと思う。松戸市は暗いニュースで取り上げられているようなイメージがあるので、それを払拭するような発信を考えていきたい。
委員
戸定が丘歴史公園は若い人にはイベントや芸術、コンサートなんかで馴染みがあるかもしれない。
委員
さっきの私の好きな公園をテーマにして、例えば委員の皆さんが説明して動画を撮るとか、自分で撮るのは大変なので学生たちにやってもらってもいいと思う。一人暮らしの学生が実はみんな知らないような、自分の家の近くの公園を大好きだったみたいな。そういう発信の仕方だって一つの切り口だと思う。そこで共感してもらえれば、行ってみようかなと思うかもしれない、そうするとみどりに対する意識も変わってくるかもしれない。
会長
そうすると見え方も違ってくるかもしれない。場所としての公園の中に人の顔が見えてきたりとか、自分の思いが入ってくると思います。
委員
キッチンカーで市内の公園を回っているが、地域ごとに高齢者が多かったり子供が多かったり、犬が多い公園もあった。とある公園では犬が集う場所となっていてキッチンカーが来ているという情報が飼い主のラインで回って犬を連れた人が来てくれたりした。それぞれに合った発信をしていけるといいと思う。
委員
流山はキャッチフレーズで、都心から一番近い森のまち。
松戸は、みどりと暮らす松戸に暮らす豊かに暮らす、暮らしとみどりが密接な町だよっていうことになる。これはキャッチフレーズとして出していっていいと思う。
豊かに暮らせてみどりといつも接していますというところで言うと、私たちの緑ネットは20年やってますが、先ほどからお話に出てる公園を歩くんです。例えば今度やろうとしているのは本土寺から浅間公園、北のほうに上がっていって広徳寺とか慶林寺とか大谷口歴史公園とかにも歩いていきましょうっていう公園を繋いで歩きながら20年やっていますが、あまり知られていない。その中で、マップにしてみんなに配って共感してもらえる形にすることが、20年やってきたことの宿題になってるかなと思う。
委員
今のことに関連して言うと、今言ったコースは全部ではないですけれども、富士山がよく見える。

それから歩くところがほぼ旧小金城址となっています。そういう視点を変えると、いつも歩いてるところが、色々なツアーとなるので、情報の出し方が大事だと思う。

会長

今のマップっていうのも、暮らしとみどり、とか歴史とみどりの見える化ですし、動画もそうだと思います。みどりの基本計画の表紙には富士山が入っています。

今日は自由にご意見いただきたいと思っていますが、今まで出ているキーワードとしては「共感」「Ｚ世代の参加」「探求の時間」「キャラクター」「周辺分野との連携」「暮らしとみどりの核になる公園」「地域の文脈とか、ストーリー」などのお話があったと思います。「暮らしとみどり」については、みどりの基本計画以前の、みどりの市民憲章の頃から大切にしている言葉となります。色々ご意見いただいていますけれど、他に何か抜け落ちているようなものはありませんか。

私たちが共有する、理解促進だとかシティプロモーションだとか、プラットフォームを実現することを考える上での大切にしたいこととか、キーワードというところで共有できればと思います。前回のキーワードは市民フォーラムのような結構テクニカルな話も出ていましたが、具体的な方法論というよりは、こういうところを共有したいと思います。今日は1度、3つの課題に戻りつつお話しをしていますので、どこからでもお話しいただいてかまいません。

委員

コロナで室内だけじゃなく外でする行動にも制限があったけれども、今は何となく開放されたり、何となく制限があったりして、ちょっと先が見えないですけれども、今は私たちの行動はどの程度までOKになっているのでしょうか。

事務局

行動自体は千葉県の指針を元に行動していますので、基本的な前から言われている「3密を避けなさい」とか、そういう基本的なコロナの対策は必要ですが、会議とかコンサートへの制限については、当初と比べると大分緩和されている印象です。イベントの環境によって定員を半分にしなさいとか、定員で大丈夫ですよと決まりますので、それに従って対応していくことになります。

今コロナの感染者数が増えていますが、職員とかが感染すると必ず市のホームページで感染者数を公表していたましたが、今はそういうことはなくなってきています。基本的コロナの感染予防をとりながら日常の生活を送っていきましょうと変わってきていると思います。お正月も、例えば2年前ですと帰省はやめましょうとなっていましたが、今回については昔と比べたらかなり多くの感染者がいますが、帰省をやめましょうという行動規制ではく、基本的な感染対策をお願いしますとなっています。

会長

この中だと公園で食べることをするので、かなり苦労されてきたんだろうなと思います。いかがでしょう。

委員

最初の行動制限の時には飲食はできなかったので持ち帰りになったが、間隔を空けて食べるように等、段々緩和されている。入場者の検温、消毒、連絡先の記入をしてもらって基本的な感染対策の上で楽しんでもらうようになっている。段々と通常に戻ってきていると思う。

会長

21世紀の森と広場のイベントなんかも、前はシャットアウトして予約して入るみたいな感じでしたけど、今は基本的な感染対策をしてくださいとなっている。例えば先日の「ドコでもシアター」は結構フリーになっている気がする。

21世紀の森と広場

去年の11月ぐらいからイベントを少しずつやっていくために県との調整を進めています。計画を出したりチェックリストを作って段々と制限を解除、緩和してきている状況です。今の段階ではチェックリスト作ればイベントを開催できるという形になっています。外でやるイベントなので2メートルの間隔について呼びかけはしますけども屋内よりは開催しやすくなっている。今のところイベントの中止はせず、5月、9月、11月とやってきています。

会長

前は履歴を追う必要性から氏名と住所を書かないと参加できなかったが大分緩和されてきたと思う。屋内でも例えば里山ボランティア入門講座も、講義に行ったときは従来と同じように出来ました。パークセンターはどうでしょう。

21世紀の森と広場

検温と消毒は必要ですが、基本的には使用可能となっています。

藤田博美委員

前のように濃厚接触者という言葉はもう全然使われなくなって、感染しているかどうかになっている。とりあえずは少しずつでもイベントをやらないと、関わってくださっている方たちが離れていってしまう現実がある。それをどこまでしてもいいのかなと思いながら計画しているんですけれども、空白期間ができると参加人数が下火になりそうな気配があるのでコロナを怖がってばかりもいられないけれども、どこまでやっていいものかは、むずかしいと感じている。例えば外の作業で暑いですから、お茶飲みましょうと言っても皆さんに「あっちとこっちと向いてください」と案内しなければならない。

会長

コロナではみどりの良さが見直された部分があると思う。公園の利用者数なんかも増えたところとかありますし、特に平日の利用者数が増えて健康とかの面でみどりのあり方はプラスに評価されてきている。でもコロナは消えていないので、取り組みを主催される側にとっては色々ご苦労があるのかなと思います。ウイズコロナの時代だからこそみどりの良さを伝えることが必要かなと思いますし、そのためには何か取り組み、具体的なイベントが大事なことかなと思います。

その中で、何か他にも何かあると。

今話してきたことは後で配られた資料の29－28に書いてある。前委員会が第12期委員会引き継ぐ課題ということでみどりの基本計画の理解の促進となっていますが、今日はどちらかというとシティプロモーションに関連したオリジナルのプログラムっていうようなところが割と出てきたと思います。次の議題がみどりのサロン部会からの報告となっていまして、これをご報告いただきつつ③のプラットフォームの実現に向けた試行的取り組みというところ、或いはそのまた①②も含めてもいいですが、サロン部会からご報告をいただいて、またそれをベースに議論できればと思います。

事務局

それでは議事3のサロン部会の報告について事務局よりさせていただきます。前回の緑推進委員会

の後、11月21日に開催しました。
出席者は６名でした。今回12期で初めての部会でしたので、まず座長を選任しました。座長につきましては引き続き高橋委員にお願いすることになりました。当日はみどりのサロン部会や緑推進委員会がどんなことをやってきたか、松戸市のみどりに関する施策をどう感じていたか等について意見交換を行いました。当日の話しの内容についてお願いしたいと思います。
会長
サロン部会のメンバーとしては、元緑推進委員と現緑推進委員に加えて一般の方が会員として活動しています。この方は子育て世代のライターの方で「まつど森ずかん」の編集をしてくれたりと精力的に活動してくれている方です。緑推進委員ではありませんが、みどりのサロン部会の会員としてこれからも活動していただけるわけですが、この方に限らず一緒に活動してもらえる方は歓迎していきたいと思いますし、活動をした事後でもいいので、委員会にも教えていただきたいと思います。
委員
一番最初ですので前回の緑推進委員会のような形で、これまでどんなことをしてきたかというお話しをしました。10期からスタートして3期目のサロン部会となりますが、コロナの影響もあって作業に手はつけたけれども、まだ整理されていないというのがいくつかあることの説明をしました。
1つはみどりに関わる活動の情報を、どういった出し方をしたらいいか。
ワークショップみたいな形でやった作業があるので一応の整理はしましたが、それをどう使うっていうところが出来ていない。また、それをじゃあどうやってビジュアル化するか、ホームページで出していくのか、ＳＮＳを使うのかというメディアをどうするかについても検討中です。
次にみどりの市民フォーラムですね。みどりのフォーラムを1度やったけれども、2度目が開催できていない状況です。
また、みどりのサロン部会の大きな成果として松戸のみどりに関わるネットワークについて説明しました。花壇ネットワークと里やま応援団がどうやって出来たのかをお話ししました。1番印象に残ったのは、2人の新しい委員さんが「こういう活動見えてないよ」というお話をしていたので、これからそれを具体的にしていきましょうと話しました。
実際の作業としては延期となっているフォーラムの開催をしたいと考えていますので、どういった形のフォーラムとするか検討していきます。次に継続してきた勉強会を公開する形でやっていきたいと提案しています。それらをどうしていくかも含めて、次回1月ぐらいに部会を開催したいと思います。
会長
延期されているフォーラムの第1回目はみどりの基本計画の中のアンケート調査結果が出た段階だったと思います。園芸学部の100周年記念の戸定ホールで開催させていただいて、その時はみどりの活動をされている方が中心のフォーラムでした。千葉大園芸学部の学生も地域でいろんなことをやっていますので、その説明をしてもらったりとか、交流会みたいな感じのことをみどりの基本計画を作ってるタイミングで行いました。
勉強会というのはサロン部会が活動の方向を考えたり、みどりの基本計画の中にプラットフォームの概念を取り入れるためにキーパーソンとなりそうな、どちらかっていうと中堅から若手のま

ちづくり等に関係している方々に来ていただいてお話を聞くというような活動を続けています。それを少し発展させて公開していくのが1つの考えてる方向です。

委員

本委員会であんまり大きなことは言いたくないですけども、プラットフォームを作っていくときに、どういう要素、どういう人材がいたらいいかなっていうことを考えた時に、こういう先例がありますよっていうような形で実践をしてきております。その時にこちらのプランどおりに引き受けていただけないケースもあるので多少の修正は行っています。これからの候補も考えているので、それを検討していって少しずつ公開することを考えています。

会長

サロン部会とか緑推進委員会のメンバーのための勉強会なのですが、少しオープンにすることを考えているわけです。

委員

ズームでの参加ができるようにしていきたいと考えている。

特にみどりの関係の活動してるところに参加してもらいたいのでサポートセンターに行った時にそういう勉強会やるので、興味を持ちそうな団体について紹介をお願いした。そういうことに全く関心ないところに声をかけても駄目なので、そういうことに関心のありそうなところに参加してもらいたいと思っている。

会長

全くサロン部会とは別の動きですけど。千葉県の第1回の里山アワードの大賞を、里やま応援団が受賞しました。大賞というと1番の賞なので、アワードの受賞記念で講演会をやるっていう話が２年ほど、コロナ禍とかもろもろでそのままになっておりましたが、そのアワードの受賞記念で講演会をやることになりました。講師は村松さんという女性にお願いをして内容を考えていますが、小中高よりはもっと今はもっと下のところをターゲットにして、幼稚園とか保育園に行ってる子供たち、親御さん、先生などに、子供が自然と触れ合ってどんな学びが得られるのかというような話しをしてもらおうと思っています。参加してもらうのは里やまの関係者はもちろんですが、これから保育園とか幼稚園の先生になろうと思っている人たちとか、あと幼稚園や保育園の先生に声をかけたいと話しています。そういった少しみどりの周辺に関わるような人たちに声をかけようっていうこと考えていて3月26日。未来フェスタの次の日に考えています。

それで例えばそういうのも、相乗りしていただいて、協力、後援、緑推進委員会サロン部会とかそういう形でもいいので、とにかく色んなところと繋がりを持とうとしてるというのが見えるといいかなと思います。相乗りについては里やま応援団さんに相談になりますが、それやっていかないと広がらないと思います。多分、サロン部会の皆さんが色んな人たちを呼んでの勉強会は結構大変な労力がかかっていると思います。例えばですけど、千葉大の方でも剪定枝とかを、チップ化して土壌に炭素貯留するという研究を社会実証も含めてやろうという動きがあったりしますし、ＳＤＧｓでいうと常盤平団地で動きがあります。自分たちで全部やるのは大変なので、そういったものをうまく使ってそこに顔を出す、名前を出すということをして、他と繋がろうとしていることが周囲からも分かるようにしていけるといいと思います。

委員

サロン部会に関して補足するとキーワード、フレーズとしてインフルエンサーがあると思ってい

ます。みどりに関係しているパーソンと、そこと次元の違う分野のパーソンの融合にはキッカケが必要で仕掛人がいた方がいいし、発信力のあるインフルエンサーを利用しない手はないのではないかと考えている。横の連携、横に伝播するような形でYouTubeのショート版じゃないですけれど、連続的に連携してくみたいな形で循環できないか考えています。

会長

こういう冊子をお金かけて作って上から落とすのでなく、というところは学生たち見ていてもそうだと思います。そんな繋がり方を考えられるといいですね。

委員

さっきの発言にある情報が届いてない、認知してもらえていないというのは、全部やるのはこれだけ情報溢れているので多分無理かと思いますが、それなりの人たちに届けるっていうのは大切だと思います。

自分のゼミの子も小田原とかでコミュニティづくりをやっていて、子供食堂、地域食堂みたいなものをうちの学生たちが運営してるいのですが、何かもっとコミュニティを広げたいと思って調べると、色んな子育てＮＰＯだとか、地域に関係するものがたくさんあるんです。自分たちが調べようと思って調べると意外と見つかるけれども、よほど統合しない限りなかなか情報が繋がらないなと思います。民間のオープンスペース使ってコミュニティーを作ろうとしてる前橋の企業さんがありますが、ここで前橋市民にアンケートを行ったところ、意外と地域コミュニティ活動に参加したいみたいな人は結構需要としてはあるんです。ただ、どこにアクセスしていいかわからないとかっていうところで結局参加できないままになっています。

みどり関係の市民活動されている方がたくさんいて、皆さんのお力でこうやってきているところがあると思いますが、その活動団体の紹介みたいな1分とか30秒とかの動画で、そこの代表の人でもいいし、普段の活動の様子、一言コメントぐらいあるぐらいでいいと思うので、そんなシリーズもありなのかと思います。また緑のライフスタイルでもあるし、それぞれがテーマ設定をどんどんできてくれば、その中に団体の紹介みたいなものも入れても面白いと思います。

委員

私たちの世代だと動画を作るとか動画に出るっていうだけで構えてしまうので、若い人に作ってもらう必要がある。今の時代は携帯でも作れる。作った情報はインフルエンサー的な機能を持った人なりサイトなり、拡散の方法は考える必要がある。

委員

例えばマルチメディア戦略みたいなものでよくあるパターンですけれども、高齢者の方向けにはラジオだとか、40代以下だったらInstagramのハッシュタグとか付けとけばそれなりにリサーチにかかる。

委員

もう1つ考えられるのは、活動団体でそれぞれサイトを持ってたりＳＮＳ使ってるところはあるので、それを例えば底上げしていくような、他のメディアと連携させていくようなやり方もある。

委員

若い方からも情報がキャッチしにくいとの話しはある。取りに行く情報なのか、流れてくる情報なのか、というところはあると思う。最近、松戸市公式の子育て情報ラインアカウントが出来たが、そのラインの中では育児のこと以外にも地域の情報やイベントの情報なんかも流してもらえ

るし、そのラインを見て来てくれた人もいるので、相手が見るか分からないけど流していく情報の方がキャッチしやすいかもしれない。話しを聞いているとホームページは優先順位が低いように感じる。自分が知りたい情報以上のものが詰まっていて、結局そこから人が離れてしまう状況があると思う。

会長

流れてくる情報って部分に共感しました。ある若い人に、最近公園行ったかって聞いたら、行きましたよって言うので、どこ行ったのか聞いたら、昭和記念公園に行ったそうなんです。なぜそこに行ったか聞いたら、何か流れてきたやつでイチョウが綺麗だったからそれに行こうと思ったっていう、そういう感覚ですよね、

多分我々の世代は、今頃どこの紅葉が綺麗かなって一生懸命探して、ここだなって思って行くんですけど、今の子たちはワーって流れてるのがあって、パッと目に止まったものを「これ良さそうじゃん」という感じで、そこから「じゃあ行ってみようか」となっている。流れてくる情報の中から取り出すっていう感じがしますね。

委員

多分世代によって情報をキャッチするインターフェースが違うんですよね。だから若い子は流れてくる情報の中から見つけるっていうことをしてると考えると感心します。

委員

若いお母さんたちとかお父さんたちは、そういう情報のとり方をしているので、不思議に距離があるんですよね。例えば活動との関わり方みたいなところになってくると、割と距離があって、自分の都合のいいイベントにはいるんだけど、行くだけでその活動自体には関わらない。どっちかというと消費型の楽しみ方をする傾向があって、最近あるところに若いお母さんたちが増えたとのことで話しを聞きに行ったら「今ちょっと止めてるんです」という話しをされました。理由を聞いてみたら「活動と繋がっていかない」とのことでした。そこについては気をつけなきゃいけないと思いました。

会長

色んな話が出てきました。延期されてるフォーラムをどうするかとか、勉強会をどうするかとか、サロン部会と他の色んなイベントとのタイアップをどうするかというところは、具体的な話なのでサロン部会の方を中心に、ご検討いただくことでいいかと思います。

全体的なプロモーションの話とか、みどりの基本計画の理解促進とか、シティプロモーションとどう絡めるかという話は、引き続きこの緑推進委員会で進めていきたいと思います。

今日いくつかキーワードが出てきたので、事務局と相談させていただきます。基本方針ではないですが、今日出た話しとか前回出た話しの中で、プロモーションしていく上で大切にしたいことを項目として整理して、共有しながら具体的に何をしようかという話しができればと思います。

議事4）その他。

委員の皆様から何かありますか。

私の方から1つお諮りさせていただきたい案件があります。

この緑推進委員会は定員15人ですが、市民委員の方の応募が少なかったので、14人で発足ました。その中で今回、1人辞退されますので、13人の委員会という状況になっています。市民公募で入ら

れた方が6人中4人ということになってますので、2名の欠員を再募集してはどうかと考えています。市民の方も続けていただく中で、色々ご発言いただいて、委員会が良くなってるところもございますし、4人から出発しちゃうとその部分が狭くなったりということもあります。
できれば1人でも多くの方に、この委員会の議論に加わっていただきたいし、サロン部会に参加してもらったり、周りにこんなことやってんだよと言っていただきたい、と私は考えていますがいかがでしょう。

―――賛成―――

会長
再募集は可能でしょうか。
事務局
市民委員の選考委員会設置要綱により、6名以内となっておりますので、2名の再募集は可能です。
会長
再募集を進めるという方向で、事務局と相談しながらやりたいと思います。
募集の広報はいつになりますか。
事務局
簡単に日程等、説明させていただきたいと思います。
先ほど会長からご案内のとおり、公平性を保つために広報まつどを通じて募集したいと考えております。最短で2月1日号に募集記事を載せることができます。次の委員会が3月の下旬を予定しておりますので、その委員会の後に応募された方の選考会を行うことが可能です。
選考方法などはどのようにしましょうか。
会長
第12期の募集テーマと同じでいかがでしょう。

―――賛成―――

事務局
「私が好きな松戸のみどり」をテーマにレポートを提出いただくことにします。
会長
再募集するということ、3月の終わりに選考委員会をやって4月から委員会に参加していただく形にしたいと思います。
事務局
次回の第3回緑推進委員会の日程は、来年3月29日水曜日の午前10時から、こちらの市民サロンにて予定しております。
会長
以上をもちまして、本日の委員会を終了します。